

月刊しばうら

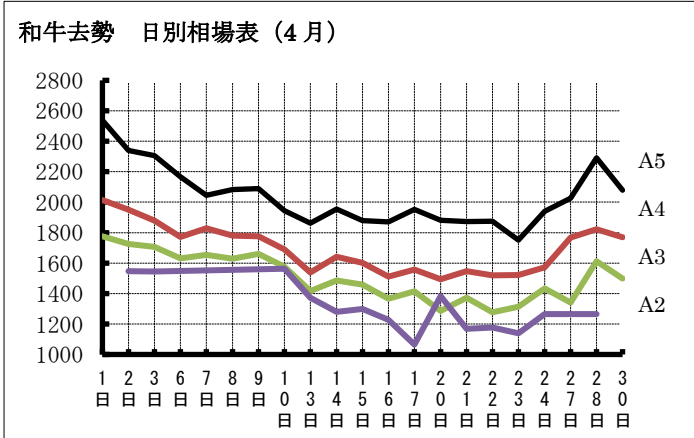
2020年5月号

牛肉営業部

<4月の相場動向>

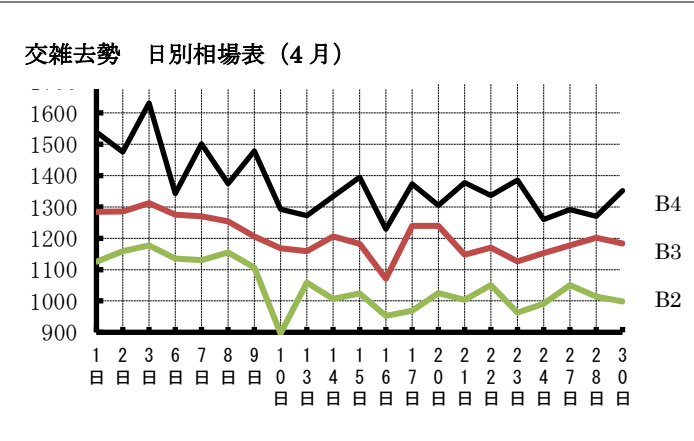
和牛去勢A5が前月比289円安の2,053円(前年同月比712円安)、A4が同154円安の1,703円(同730円安)、A3が同148円安の1,518円(同744円安)、A2が同219円安の1,262円(同771円安)となり、交雑牛去勢はB4が134円安の1,387円(同377円安)、B3が同128円安の1,210円(同432円安)、B2が同87円安の1,052円(同479円安)、乳牛去勢はB2で263円安の712円(同350円安)となった。

緊急事態宣言の発令を受け、枝肉の需要はさらに減退した。和牛は外食向けを中心に一層厳しい状況となり、去勢の5等級は中旬から2千円を割り込む展開となった。交雑牛も和牛ほどではないにせよ、じりじりと下落し軟調な展開となった。



和牛去勢 (月平均)

A5	2,053円	(前年同月比 74.2%)	(前月比 87.7%)
A4	1,703円	(〃 70.0%)	(〃 91.7%)
A3	1,518円	(〃 67.1%)	(〃 91.1%)
A2	1,261円	(〃 62.1%)	(〃 85.2%)



交雑去勢 (月平均)

B4	1,387円	(前年同月比 78.6%)	(前月比 91.2%)
B3	1,210円	(〃 73.7%)	(〃 90.4%)
B2	1,052円	(〃 68.7%)	(〃 92.4%)

乳牛去勢 (月平均)

B3	上場なし		
B2	712円	(前年同月比 67.0%)	(前月比 73.0%)

<5月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した輸入通関実績によると、3月の輸入量は前年比21.2%増の4万7,549tで、うちチルドは11.2%増の2万4,925t、フローズンは34.6%増の2万2,624tとなっている。チルドは新型コロナの影響で需要が減少した中国から日本に向けて出されたオファーの契約玉が入荷されたものとみられる。フローズンは昨年3月が通関を先送りし1.7万tと少なかった反動により、昨対比で34.6%の増となっている。

農畜産業振興機構の予測による5月の牛肉輸入数量は、前年比2.4%減の4万7,400t。チルドは、5.6%減の2万1,800t。フローズンは、0.8%増の2万5,600tと予測している。

輸入牛肉通関量		3月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	12,146	9,419	129.0%
	米国	10,695	11,553	92.6%
	その他	2,084	1,444	144.3%
	合計	24,925	22,416	111.2%
フローズン	豪州	12,091	9,082	133.1%
	米国	5,560	4,926	112.9%
	その他	4,973	2,799	177.7%
	合計	22,624	16,807	134.6%

単位：t 出典：食肉速報

<5月の全国出荷頭数予測>

家畜改良センターによる2020年3月末の牛の全国飼養頭数は前年同月比1.1%増の390万2,229頭と微増で、品種別にみると、黒毛和種は前年比2.5%増の169万6,448頭、交雑種は0.1%減の50万2,601頭、ホルズ種雄が3.7%減の26万510頭、雌が0.7%増の136万3,044頭であった。

また、牛飼養施設数は3.8%減の5万6,862カ所で、1カ所あたりの飼養頭数は全品種平均で68.6頭と引き続きの減少となった。

農畜産業振興機構による5月の出荷予測頭数は、全体で前年比2.4%減の7万8,800頭と予測。品種別にみると和牛は2.2%増の3万5,400頭、交雑種は4.9%減の1万7,900頭、乳用種は6.7%減の2万4,300頭と予測している。

東京食肉市場の5月のと畜頭数は6,600頭を予定している。

<5月の牛枝肉相場見通し>

5月6日までに設定されていた緊急事態宣言が延長されたことにより需要の回復は難しく、とりわけ外食やホテル業は危機的状況に陥っている。その反面で内食需要に期待をしたいところではあるが、景況も悪化し事態の収束が見えない中、消費者の節約志向・自己防衛意識も高まっている。客足の好調な量販店では鶏肉・豚肉などの頻度品、牛肉においても輸入物が引き合いの中心となり、国産の牛肉は苦戦するものと思われる。交雑は全国的にも出荷頭数が少なくもちあい程度と思われるものの、和牛は引き続き上位等級ほど厳しい相場展開が予測される。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,000~2,100	B4	1,350~1,400
A4	1,700~1,800	B3	1,200~1,300
A3	1,500~1,600	B2	1,050~1,150
A2	1,250~1,350		
乳牛去勢			
B3	1,000~1,050		
B2	850~900		

豚肉営業部

3月の全国と畜頭数は、前年同月比7.1%増の143万4,611頭と前年同月より増加した。また、3月の豚肉通関数量は6万7,686t(前年同月比1.4%減)と前年同月から減少となり前月比では1.0%増となった。内訳はチルドが3万5,478t(3.9%増)、フローズンは3万2,208t(6.7%減)と減少した。

2019-2020年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
3	74,058	68,303	21,221	145,268	72,588	70,432
4	77,788	98,235	22,544	167,222	76,406	76,281
5	75,254	84,396	21,643	184,963	76,085	66,655
6	67,048	76,246	23,332	183,952	65,290	77,257
7	74,899	83,315	21,828	192,531	76,348	76,736
8	67,745	84,982	20,615	200,018	68,891	77,385
9	68,819	78,125	20,351	197,854	69,025	80,399
10	79,112	83,940	20,128	198,840	79,247	82,954
11	77,534	82,715	21,804	191,175	75,817	90,380
12	80,884	72,264	20,806	181,469	81,783	81,970
1	80,864	72,280	21,474	187,738	80,150	66,011
2	73,425	66,987	23,077	185,042	71,714	69,683
3	79,535	67,628	25,062	185,075	77,478	67,595
比	107%	99%	118%	127%	107%	96%

比：最終月の前年同期比 出典：農畜産業振興機構 単位：t、%

3月豚肉通関実績						単位：t、%		
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比			
アメリカ	17,397	92.9	デンマーク	4,079	75.8			
カナダ	17,485	121.3	スペイン	8,031	100.0			
メキシコ	595	60.0	メキシコ	6,202	122.6			
			アメリカ	4,073	106.0			
			カナダ	2,437	103.9			
合計	35,478	103.9		32,208	93.3			

<4月の豚取引の推移>

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	65,000	597	545	776
2日	66,800	550	520	780
3日	63,700	533	521	845
6日	64,700	577	541	684
7日	67,200	585	572	909
8日	64,500	574	546	802
9日	67,800	553	536	669
平均	65,671/日			780/日

7日には7都道府県を対象に緊急事態宣言が発令され、量販店では生鮮品も含めて食料品の買いだめが起きており、全国的に豚肉の引き合いが強まってきた。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
10日	63,800	563	549	874
13日	65,300	577	564	648
14日	67,100	617	615	833
15日	64,700	574	569	726
16日	67,800	577	562	763
17日	64,900	589	568	887
20日	66,800	584	573	716
平均	65,771/日			778/日

全国と畜頭数は6万頭台半ばで安定したが、旺盛な需要が続く中、上中格差はほとんどなく底堅い展開が続いた。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
21日	67,500	605	587	889
22日	67,300	632	618	749
23日	67,800	647	633	681
24日	66,500	648	637	929
27日	72,000	692	688	767
28日	74,500	752	749	952
30日	72,900	680	640	980
平均	69,785/日			849/日

内食需要が更に高まったことに加え、GWの手当が強まったことから後半になるにつれて相場は600円を大きく上回る展開となり祝日前の28日には上物相場が750円を超えた。部分肉の冷蔵品も量販店などの販売が好調で、全体的に荷動きは堅調。

<5月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による5月の肉豚出荷予測では131万1,100頭(前年比96.7%)と予測している。当市場の5月集荷予定頭数は1万4,000頭、1日あたりでは約777頭を見込んでいる。

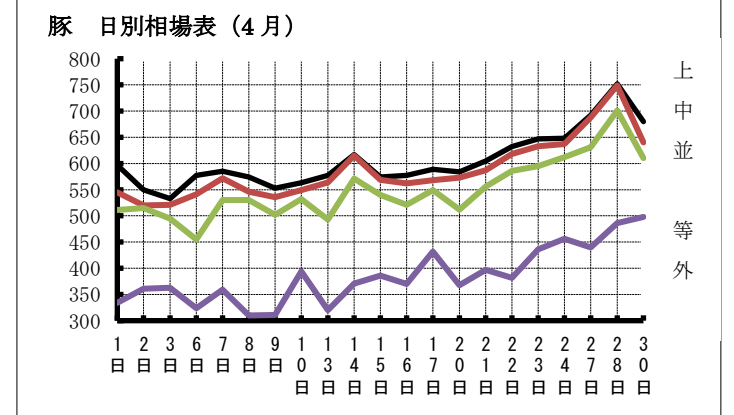
農畜産業振興機構によると5月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万1,600t(同84.8%)、内訳はチルドが3万2,000t(同91.5%)、フローズンは3万9,600t(同80.1%)と予測。

冷蔵輸入量は、新型コロナウイルス拡大防止の為、現地工場が閉鎖したことによる生産減等から前年同月を大幅に下回ると予測する。3ヵ月平均でも、前年同期をやや下回ると予測する。冷凍品輸入量も新型コロナウイルスの影響により外食産業向けを中心に国内需要が減少することが見込まれることから前年同月を大幅に下回ると予測する。なお3ヵ月平均でも、前年同期を大幅に下回ると予測する。

5月はGWによって営業日数は少ないものの、今後は夏場にかけて出荷頭数が落ち込んでくる時期に加え関東圏でのPEDにより出荷への影響を受けることが予想される。

一方で新型コロナウイルスの終息のめどは全く立っておらず、引き続き全国的に家庭消費は堅調に推移するとみられる。さらに、これまで安定的に供給されてきた輸入チルドは新型コロナウイルスが現地の生産にも影響を及ぼし、日本向け輸出にも影響が出始めており、5月後半から輸入チルドの供給は減少していくことが予想される。こうした状況を踏まえると国産豚肉相場は高値推移していくものとみられる。

以上のことから当市場の上物平均価格は600円前後、中物平均価格580円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127